

丹沢 沖ビリ沢～縦ノ木沢 沢登り報告

- 【山 域】 西丹沢 世附川流域
- 【日 程】 2017年7月16日(日) 前夜発日帰り 晴れ
- 【参加者】 CL 柘植、江橋、杉山、石井、加藤(記録)
- 【行 程】 山伏峠トンネル脇駐車 5:30→山伏峠→水ノ木分岐 6:15→沖ビリ沢下降→
縦ノ木沢橋 7:50→縦ノ木沢遡行→稜線 12:00→山伏峠→15:00 トンネル脇駐車



【報告】

ナメが美しく癒やし系でヒルのいない沢を求めて、西丹沢の世附川流域の沢を探索し、CL お薦めの金山沢支流沖ビリ沢と縦ノ木沢に決めた。前夜、道の駅どうしに仮泊したが大型バイクで集まった若者が騒がしく、ほとんど寝付けなかった。翌朝山伏峠トンネル山中湖側脇道のスペースに駐車し、トンネルを道志側に戻って、すぐ登山道へ。40分程度で水ノ木分岐に到着する。



左の三角山が西丸(手前の鞍部を左へ下っていく)



水ノ木分岐で身支度

道標とテーブルがあり沢装備を着けていよいよバリエーションルートに突入する。西丸に通じる尾根は背の高い笹に囲まれているがテープや踏跡はしっかりしている。最低鞍部の手前から沖ビリ沢源頭を目指して崩れやすい斜面を急降下する。沢は花崗岩の滑りにくいナメが主体であるが、左岸の2ヶ所の急斜面にトラロープが設置されていた。1本目は難なく降りたが、2本目の斜面のトラロープの存在に最初気付かず、CL がヘツリの途中で滑り落ちてしまった。傾斜が緩やかになるとウォーターウォーキングとなり左側に古い林道が現れた。やがて縦ノ木橋に到着し橋の左側の踏み跡から再び沢に降り立つ。



沖ビリ沢最初のトラロープ滝



2 番目のトラロープ滝



下のほうのナメ滝（歩いて降りられる）



縦ノ木沢橋の手前から縦ノ木沢に入溪



縦ノ木沢の最初のナメ滝



両門の堰堤（左は西沢、右が本流）



長いゴーロ歩きが終わると期待を持たせる雰囲気



小さなゴルジュでヘツリの練習



核心部入口の細長いミニゴルジュ



釜は浅く、滝も容易に登れる



唯一巻いたチョックストーン滝



ミニ両門の滝（左の滝に登る）

樫ノ木沢もナメが発達したきれいな沢ある。すぐ階段状の快適なナメ滝を越えるとしばらくゴーロ歩きが続く。西沢を左に見送り、堰堤を越える。川幅は狭まり細長いゴルジュになり腰まで浸かって超える。次のチョックストーンの滝は登れないので、今回初めてロープを使用し右から高巻きする。ミニ両門の滝は左の流心を行く。その先にもきれいなナメ滝が続き、このあたりが樫ノ木沢で一番楽しい所であろう。奥秩父釜ノ沢の千畳のナメ（のミニ版）のようなところを通り過ぎ、二俣、奥の二俣も右へ行く。沢筋を外さずに登り続け、最後は笹をつかんで急登すると油沢の頭の少し東側のピークに登りついて、今回の沢登りを終了する。



両門の滝の左滝を登る



その先のナメ滝を登る



ミニ千畳のナメ



水も涸れて終盤戦



最後の稜線直下の急登



油沢の頭

県境尾根を山伏峠目指して戻る。それぞれのピークには道標とテーブルが設置されていてよく整備されている。途中の送電線の鉄塔付近は開けていて展望が利くが、富士山方向はまだ見えない。再びトンネルを車に気をつけながら駐車スペースに戻った。「石割の湯」で汗を流し、賑わう山中湖畔から富士山を眺めながら大渋滞の中央道を帰葉した。